

第 8 回きたかみ生活相談員連携交流会

主催 北上生活相談員実行委員 共催 北上市在宅医療介護連携支援センター

1月18日、北上済生会病院にて、きたかみ生活相談員連携交流会を開催、今回は「相談員業務疑似体験」を行いました。参加者は15名でした。相談員業務の「会話」能力を高め、傾聴・聞き出し・話の整理等が円滑にできるようになることを目的に、聞く立場と聞かれる立場を経験し、互いのスキルを学びあいました。体験することで業務の振り返りや家族の要望、本人の希望、生活状況などを踏まえながら対応していく姿勢、信頼関係を築き聞かれる立場を経験することで相談支援を行う上での基本的視点について学ぶことができました。



平成 30 年度在宅医療推進のためのスキルアップ講演会

「生きる」を支える～地域包括ケアからケアする社会へ～

主催：北上医師会 後援：北上市在宅医療介護連携支援センター

1月30日、北上済生会病院にて、平成30年度岩手県在宅医療人材育成基盤整備事業、「『生きる』を支える～地域包括ケアからケアする社会へ～」をテーマに、東埼玉病院在宅医療連携拠点菜のはな室長中野智紀氏をお迎えし、講演会が開催されました。生きることの苦しみは断片的にしか理解されないことや、多様な転機を招くというお話、社会保障モデル的な生活支援にはすでに限界が見えているということ、その地域で「ふつうにくらせるしあわせ」を考えていく幸手市と杉戸町の取り組みなどについて、地域ケア会議の様子や市町村レベルで改善を図れる組織作りやつながりなどについて、たくさんの写真や動画などを交え、盛りだくさんのお話をいただきました。また、とねっと（埼玉利根保健医療圏地域医療ネットワークシステム）についてもご紹介いただきました。

平成 30 年度市町村職員等在宅医療・介護連携実務者研修

主催：岩手県・一般社団法人岩手県医師会

1月31日、岩手県医師会館で行われた市町村職員等在宅医療・介護連携実務者研修にて、北上市の在宅医療・介護連携推進事業の取り組み状況について報告を行いました。厚生労働省による基調講演、岩手県による行政説明のあと、各市町村の事例紹介が行われました。

- 事例紹介
- ①釜石市在宅医療・介護連携係長 小田島史恵 氏 「入院患者の介護認定申請に関する病院と行政の認識の違いから生じる課題とその解決に向けた取り組みについて」
 - ②北上市在宅医療介護連携支援センター 菊池涼子 氏
「地域の基幹病院が在宅医療介護連携拠点を設置した経緯と相談支援の状況について」
 - ③住田町保健福祉課課長補佐 千葉英彦 氏
「訪問看護ステーションの設置に向けた取り組みについて」
 - ④医療法人葵会チームもりおか所長 板垣園子 氏
「介護施設等の療養者の救急搬送時の課題と解決に向けた取り組み（緊急時連絡票の修正）」

平成 30 年度

患者の意向を尊重した意思決定支援のための研修会

共催：北上医師会、北上市在宅医療介護連携支援センター

2月3日、北上済生会病院において、人生の最終段階における医療・ケアの意思決定支援に関わる医療・介護・福祉・行政に従事する専門職を対象とした、「患者の意向を尊重した意思決定支援のための研修会」が開催されました。医師や介護職、リハ職など18名が参加しました。ロールプレイやグループワークを中心とした約8時間に及ぶプログラムでしたが、グループで協力しながら無事にすべてのプログラムを終了することができました。

最も重要である「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」における、意思決定支援や方針決定の流れに沿い、ひとつの事例を通して、医師等の医療従事者から本人・家族等へ適切な情報の提供と説明がなされたうえで、介護従事者を含む、多職種からなる医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人の意思決定を基本として進めること、心身の状態で医療・ケアの決定が困難な場合、本人の推定意思を尊重し、本人にとっての最善の方針を医療・ケアチームで慎重に判断すること、心身の状態に応じて意思は変化しうるため繰り返し話し合うこと、などについて学びました。



第 11 回多職種事例検討会・ケアラボ@きたかみ

主催：北上市・北上市包括支援センター主任介護支援専門員部会
北上市在宅医療介護連携支援センター

2月7日、北上市役所5階会議室にて、第11回多職種事例検討会・ケアラボ@きたかみが開催されました。いつも参加してくださるメンバーの他に、新しい方たちの参加も多くなってきており、11回を迎えた今回は19職種86名の方が参加されました。

今回は、北上済生会病院病棟看護師の菊池佐知恵氏を事例提供者に迎え、事例「独居・身寄りのない方の退院後の生活の選択肢や困難な面をどう支えるか・それに対し私たちが出来ること準備しなければならないこと」について、参加者が意見を述べ合い、いろいろな発想が出されていました。患者さんご本人の意向確認の難しい症例をどのように支援していくか対人援助を行ううえで大切な視点を含む事例でした。次回は4月18日市民交流プラザを会場に、北上済生会病院作業療法士近藤理智生氏から事例提供予定です。「こんなケースどうしたらよいの?」という事例を提供したいの方は、お問合せは北上市在宅医療介護連携支援センターまでお願いいたします。次年度も継続開催していきますのでみなさまのご参加お待ちしております。



第 5.6 回入退院支援作業部会

主催 北上市在宅医療介護連携支援センター

1月18日、3月11日、北上済生会病院にて入退院支援作業部会が開催され、今年度予定されていた全6回の部会が終了しました。改めて1年間の取り組み状況について報告します。

部会の目的

4フェーズの視点（日常の療養支援・看取り・緊急時の対応・入退院支援）から、医療・介護・行政が必要とする情報の検討と入退院時連携にあたっての主な課題と対応策の提案を行うことにより、**入退院支援の推進及び医療と介護の連携推進・強化を図るとともに、医療介護連携・多職種協働のスキルアップと在宅チームケア体制の構築を図ること。**

メンバー 北上市老人福祉施設連絡会/北上地区ケアマネジャー連絡協議会/地域包括支援センター

北上中央・わっこ/岩手県立中部病院/北上済生会病院/花北病院/ホームケアクリニックえん

北上市長寿介護課/岩手中部地域医療情報ネットワーク協議会事務局/中部保健所（オブザーバー）

北上市長寿介護課包括支援係・北上市在宅医療介護連携支援センター（事務局）

内容

- 1) ケアマネジャー⇒医療機関への入院時情報提供書「医療と介護の情報提供書（在宅情報）」の様式等の見直しと運用を行った。
- 2) いわて中部ネット「介護・行政」必要情報の検討と運用について、岩手中部地域医療情報ネットワーク協議会事務局へ意見集約書を提出。いわて中部ネットと部会間の窓口担当者を2名選出した。
- 3) 北上市の入退院支援の手引き・ハンドブックの作成（5月発行予定）
- 4) 報告書、アクションプランの提案（6月予定）

新年度、作成された「入退院支援の手引き・ハンドブック」を活用した研修会やアクションプランの実施を通して、本人・家族の意向をくんだその人らしい生活を支援できる、医療介護連携・多職種協働のスキルアップと在宅チームケア体制の構築を進めていきます。

平成 30 年度第 5 回医療・介護人材育成のためのテーマ型研修会

「高齢者に多い感染症（発熱）」

主催：北上市在宅医療介護連携支援センター

2月13日 北上済生会病院にて、第5回医療・介護人材育成のためのテーマ型研修会が開催され、岩手医科大学総合診療医学分野助教山田哲也氏を講師に迎え、「高齢者に多い感染症（発熱）」をテーマにお話をいただきました。参加者は39名でした。グループに分かれ Q&A 方式で参加者全員が楽しく学ぶことができました。感染症って？・インフルエンザのあれこれ・感染予防策について・耐性菌って何？・高齢者の感染症の特徴・利用者さんの熱、その時どうする？など、時期的にも参考になる内容が多く、実りある研修になりました。あつという間の時間で「もっとたくさん学びたかった」というご意見を頂きました。クイズの全問正解はなかったのですが、回答数の多かったチームはご褒美を頂いておりました。平成30年度テーマ型研修に参加いただきありがとうございました。参加者の中にはテーマ型研修皆勤賞の方もおり主催者一同、感謝しております。



在宅医療・介護連携推進事業「意見交換会」(仙台会場)

主催： 厚生労働省

2月14日、TKPガーデンシティ仙台勾当台にて、在宅医療・介護連携推進事業「意見交換会」が開催され、北上市の在宅医療・介護連携推進事業の取り組み状況について、北上市長寿介護課包括支援係長高橋範行氏と北上市在宅医療介護連携支援センターMSW菊池涼子氏共同による事例報告を行ってきました。厚生労働省による行政説明、東京大学高齢社会総合研究機構によるレクチャーのあと、北上市と宮城県角田市の事例紹介が行われ、その後、地域の特性を踏まえた在宅医療の推進に向けた取り組みについて、グループワークが行われ、4場面(日常の療養支援・看取り・緊急時の対応・入退院支援)を踏まえた、在宅医療・介護連携に関する課題を出し合いました。

北上市の在宅医療介護連携の取り組みの特徴は、「一次連携」です。チームかまいし方式を参考に、市民、関係機関と個々の連携の場を持つ「一次連携」を実施してきました。

今後は地域包括ケアに関する現状把握を更に進め、見えた課題を一次連携相手と共有することで、必要な取り組みを明確化していきます。また、市民との多様な対話の場をつくり、市民との対話を通して、医療介護関係者及び市がこれからのケアの可能性を共に模索していきます。

市民と専門職の顔の見える連携企画

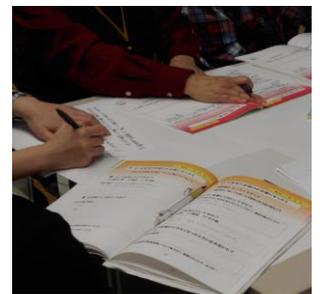
第5回幸せに歳を重ねるための心づもり勉強会

主催 北上市・北上市在宅医療介護連携支援センター

2月18日、さくらホールにて、第5回心づもり勉強会が開催されました。人生において病気・老い・障がいとともに暮らす時期を迎えても、「じぶんらしく生きるための心づもり」ができるよう、「学び」を深め「しくみ」を考え合う市民と医療と福祉の専門職によるこの勉強会も回を重ね、この度、北上市版「わたしのきぼうノート」が完成し、配布がスタートしました。

そこで今回の勉強会では、岩手県立中部病院副院長星野彰氏をコーディネーターに迎え、参加者総勢66名で、実際にノートの書きっこ会を行い、ノートの使い勝手と普及方法について話し合いを行いました。グループごとの発表では、福祉・地区センター・区長・民生委員に周知して公民館単位で広げるのがいいのではないか、学校、総合学習で学んでほしい、成人式、父兄会などもよい機会ではないだろうか、星野医師にコミュニティFMに出演していただく、ドラマ化するなどたくさんの意見が上がっていました。普及対象については、若い人も元気な人もいろいろな人が使えるのではないか、またかかりつけ医にも知ってほしいと意見がありました。今後の普及について検討していきたいと考えております。

編集後記：下半期の事業が多くなり続けての発行となりました。皆様の協力により研修は順調に進んでおります。皆さまのご期待に備えられるようにしたいと思っておりますのでご意見や企画等ありましたらお知らせください。



〒024-8506 北上市花園町一丁目6-8

(北上市済生会病院管理棟2階)

北上市在宅医療介護連携支援センター

TEL: 0197-88-3011 FAX: 0197-88-3012